

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-163	15-075	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>HIV and alcohol knowledge, self-perceived risk for HIV, and risky sexual behavior among young HIV-negative men identified as harmful or hazardous drinkers in Katutura, Namibia. ナミビア、カツウラ地域において、危険飲酒行動のみられた HIV 陰性若年男性における HIV・アルコール関連知識、HIV の自己認識リスクおよび高リスク性行為</p>		
執筆者		
Amee Schwitters, Jennifer Sabatier, Puja Seth, Mary Glenshaw, Dietrich Remmert, Sonal Pathak, Naomi Bock		
掲載誌		
Schwitters et al. BMC Public Health (2015) 15:1182. DOI 10.1186/s12889-015-2516-5		
キーワード		PMID
ナミビア、アルコール、HIV、男性		26607874
要 旨		
目的：		
ナミビアの HIV 有病率は 13.3%に及び、HIV 感染高リスク性行為にアルコールが関与している。ナミビア、カツウラ地域において危険飲酒行動を報告した男性における HIV・アルコール関連知識、HIV の自己認識リスクを検証した。		
方法：		
HIV 陰性の 18 歳以上男性を対象に危険飲酒行動および性行為パートナーに関するスクリーニングを行い、無作為に介入群と対照群とに割り付けた。ベースライン解析は統計ソフト SAS 9.3 と R3.01 とを用いた。		
結果：		
組み入れ基準を満たした合計 501 人を解析対象とした (AUDIT [アルコール使用障害特別テスト]の平均値=12.4)。HIV・アルコール関連の知識レベルは高く、対象者の大部分は評価質問に正しく回答した (正答率：HIV の知識>85%, アルコールの知識 89.8–98%)。しかしながら、66.7%の男性は HIV 感染リスクがある程度～かなりあると感じていた。このように答えた対象者の 56.5%が飲酒後に性行為欲求を感じるとし、40.3%が酩酊時の性行為がよりよいと回答した。不特定の性パートナーを持つ者 188 名のうち、44.1%が、最近の性行為が酩酊時であり、32.5%はその際にコンドーム使用せず、と回答した。酩酊時でない対象者においてコンドーム不使用は 13.3%であった。		
結論：		
一時的な関係による性行為が多く見られた。コンドーム使用は一貫性がなく、性行為前の飲酒も頻回に報告された。感染リスクの高い性行為やピア・プレッシャー (仲間からの圧力) による飲酒行為などの飲酒関連リスクを低減することが強調されるべきである。		